



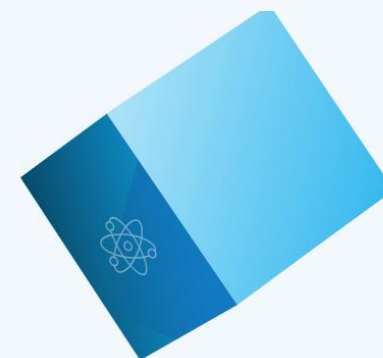
令和7年度

あいちデジタルアイランドプロジェクト推進事業
(先端デジタルサービスパイロット事業)
実施委託業務



実施報告書

令和8年3月25日
株式会社eiicon



1. 全体概要

1. 事業概要
2. 事業成果

2. 全体スケジュール

3. プロジェクト概要

1. 新規枠

- I. 愛知国際会議展示場株式会社
× 株式会社センサーズ・アンド・ワークス
- II. ANA中部空港株式会社 × 株式会社FaroStar
- III. ANA中部空港株式会社 × 中部国際空港株式会社
× iPresence株式会社
- IV. 知多半島ケーブルネットワーク株式会社 × 株式会社Plaru
- V. 知多半島りんくう病院 × 株式会社ジョシュ
- VI. 中部国際空港株式会社 × イーマキーナ株式会社
- VII. 中部国際空港株式会社 × 株式会社サイバーコア
- VIII. フォーポイントバイシェラトン名古屋 中部国際空港
× 株式会社JOYCLE
- IX. 株式会社ブルーチップファーム × ナカチカ株式会社
- X. 名鉄ワールドトランスポート株式会社 × AltoAir株式会社

2. ライトハウス枠

- I. 知多半島りんくう病院 × 株式会社Eyes, JAPAN
- II. ANA中部空港株式会社 × AltoAir株式会社
- III. 株式会社矢場とん × 株式会社ファーストローンチ

3. 大規模枠

- I. 株式会社ジェイアール東海高島屋
× マーベリックソリューション株式会社
- II. 株式会社中日新聞社
× 一般社団法人 One Smile Foundation
- III. 株式会社名古屋グランパスエイト × VRTalk株式会社
- IV. 株式会社道の駅とよはし × 株式会社はこぶん
- V. 株式会社矢場とん × マーベリックソリューション株式会社

1. 全体概要

1. 事業概要



事業名称 あいちデジタルアイランドプロジェクト推進事業（先端デジタルサービスパイロット事業）実施委託業務

プロジェクトの背景

愛知県は、2026年に開催されるアジア競技大会等を見据え、海外からのゲートウェイとなる中部国際空港島及び周辺地域(以下「当エリア」という。)を、先端デジタル技術の実証意向があるテック企業、スタートアップ等を誘引する「革新的事業・サービスのオープンイノベーションフィールド」として位置づけ、実証の取組を県内外に横展開し、2030年に普及が見込まれる各種サービスやソリューションの早期社会実装の実現を目指す「あいちデジタルアイランドプロジェクト」を実施している。

本事業の目的

本事業では、当エリアに立地する企業・施設等の課題の解決や付加価値の創出に向けた先端デジタル技術の実装支援等を行うとともに、その成果を県内企業へ横展開することで、当エリアを起点とした県内全域での先端デジタル技術の早期普及を目指していく。

実施内容

新規枠

当エリアに立地する企業の
課題解決

(以下「新規枠」という。)

「新規枠」のプロジェクトの組成及び推進を実施した。

ライトハウス枠

当エリアに立地する企業の
課題解決に資する継続プロジェクト

(以下「ライトハウス枠」という。)

「ライトハウス枠」のプロジェクト選定及び推進を実施した。

大規模枠

大規模イベント等で
想定される課題解決

(以下「大規模枠」という。)

大規模枠に資するプロジェクトの組成及び推進を実施した。

事業全体の成果

ニーズ企業

13 社

シーズ企業

16 社

組成プロジェクト

18 件

1. 全体概要

2. 事業成果 (1/2)



新規枠の採択プロジェクト

#	枠組み	企業名	採択シーズ企業	募集テーマ
1	新規枠	愛知国際会議展示場株式会社	株式会社センサーズ・アンド・ワークス	地域と共生する音楽イベントのための環境センシング
2		ANA中部空港株式会社	株式会社FaroStar	持続可能な空港運営に向けた航空機周りのグラハン業務の効率化・省人化の実現
3		ANA中部空港株式会社、中部国際空港株式会社	iPresence株式会社	“迷わせない” パーソナル空港案内の未来を先端技術で創る
4		知多半島ケーブルネットワーク株式会社	株式会社Plaru	世代別・嗜好別観光体験の設計と発信支援
5		知多半島りんくう病院	株式会社ジョシュ	AIを含むデジタル技術を活用した医療情報一元化によるストレスの少ない医療サービス提供の実現
6		中部国際空港株式会社	イーマキーナ株式会社	バードストライクのさらなる抑制に向け“人手に頼らずとも鳥を寄り付かせない滑走路”の実現
7		中部国際空港株式会社	株式会社サイバーコア	免税店に来るお客様のニーズに合わせた売り場づくりの実現
8		フォーポイントバイシェラトン名古屋 中部国際空港	株式会社JOYCLE	ホテルで出る廃棄物の新たな処理方法を検討し処理コストの削減を実現
9		株式会社ブルーチップファーム	ナカチカ株式会社	インバウンド個人旅行者向け常滑周遊体験の創出
10		名鉄ワールドトランスポート株式会社	AltoAir株式会社	現場作業と顧客のコミュニケーションを革新するDXツールの共創

1. 全体概要

2. 事業成果 (2/2)

ライトハウス枠・大規模枠の採択プロジェクト

#	枠組み	ニーズ企業名	シーズ企業名	共創テーマ
11	ライトハウス枠	知多半島りんくう病院	株式会社Eyes, JAPAN	医師や看護師のカルテ等の記録作成作業や情報連携の効率化
12		ANA中部空港株式会社	AltoAir株式会社	航空機ハンドリング業務の省人化の実現
13		株式会社矢場とん	株式会社ファーストローンチ	「待ち時間」のエンタメ化や効率的な運営の実現
14	大規模枠	株式会社ジェイアール東海高島屋	マーベリックソリューション株式会社	日本最大級のバレンタイン催事「アムール・デュ・ショコラ」スマート運営の実現
15		株式会社中日新聞社	一般社団法人 One Smile Foundation	ユニークな観戦体験の創出によるスポーツ興行の裾野拡大
16		株式会社名古屋グランパスエイト	VRTalk株式会社	大規模スポーツ興行における来場者に“迷わせない”観戦体験の設計
17		株式会社道の駅とよはし	株式会社はこぶん	愛知県No.1道の駅における来訪者データを活用した顧客満足度の向上
18		株式会社矢場とん	マーベリックソリューション株式会社	最速みそかつナビ！最短で入れる店舗を現在地からご案内

2. 全体スケジュール

	2025年												2026年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
新規枠・大規模枠															
ニーズ企業の募集・選定／テーマ設計	4～7月														
シーズ企業の募集・選定				7～9月											
実証計画の策定						9～11月									
実証の実施									12～2月						
ライトハウス枠															
プロジェクトの募集・選定		5～6月													
実証計画の策定			6～7月												
実証の実施					8～2月										
成果報告会															
AICHI INNOVATION CHALLENGE														3月	

3. プロジェクト概要

1. 新規枠

1. 愛知国際会議展示場株式会社 × 株式会社センサーズ・アンド・ワークス

地域と共生する音楽イベントのための環境センシング

ニーズ企業課題

会場から離れた遠隔地での騒音を測定する環境が構築できていない。
即時性のある騒音データを取得できていない。

プロジェクト目的

地域と共生する音楽イベント等実現に向けた騒音管理の実現

実証目的

各観点（サスティナブル性、トラッキング性、広域データ伝送性、リアルタイム性）
でKPIを設定し、実運用に耐えられるものかを評価すること。

実証内容

ゲートウェイを愛知県国際展示場に、子機を複数箇所に設置し（※右図参照）、環境音および音源サンプリングデータについて、曲想を保持しつつデータ量を圧縮する処理を検討した。その上で、複数のパターンによる圧縮および電文化を行い、LPWAによる送信試験を実施した。また、伝送データを保存するデータベースおよび当該データを表示するUIを構築し、当該環境に基づきデータを確認した。

今後の展望

5月開催の野外音楽イベントを実証の場とする当初方針に向けて、現地へ計測環境として導入し、準備を進める。
構築したUIの評価や観測されたdB群に対しての規制ルールづくりなど、主に運用面で関係者との協議を進める。
水平展開として、航空機の騒音など、周波数分解を必要とする音計測用途に向けたユースケース模索を行っていく。

実証結果

設定した全KPIを達成する環境を実現することができた。

図：ゲートウェイおよび子機の設置場所（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

1. 新規枠

II. ANA中部空港株式会社 × 株式会社FaroStar

持続可能な空港運営に向けた、航空機周りのグラハン業務の効率化・省人化の実現

ニーズ企業課題

安全リスク：到着スポット進入時、死角からの車両や人の横切りによる接触リスクがある。夜間・悪天候時は更に危険性が増大する。

人的負担：屋外での監視業務は、天候の影響を直接受けやすい。「見るだけ」の業務に人員が拘束される。

管理の高度化：ヒューマンエラーを排除し、客観的なデータ（ログ）に基づく安全管理体制への移行が必要である。

プロジェクト目的

「絶対安全の確保」と「監視員0名体制」の実現

実証目的

検知精度、即応性、運用信頼性及びユーザービリティの観点でKPIを設定し、運用性を評価すること

実証内容

ボーディングブリッジ出入口付近の2か所にカメラを設置し（※右図参照）、到着機の映像を取得した。取得した映像情報を基に、3D空間の認識および対象物の検知を行い、その結果をボクセル空間に反映した。さらに、ボクセル空間上で再現した航空機と車両等との距離を算出し、当該距離が所定の閾値を下回った際にアラートを発報する実証を実施した。

本実証では、実際に車両等を航空機へ接近させることが困難であったため、アラート発報の閾値を調整し、十分な離隔がある場合でもアラートが発報される設定とすることで、アラート動作のデモンストレーションを実施した。

当該デモンストレーションについては、現場スタッフ（VDGS・マーシャリング）にも体験してもらい、アンケートを実施することで評価を得た。

今後の展望

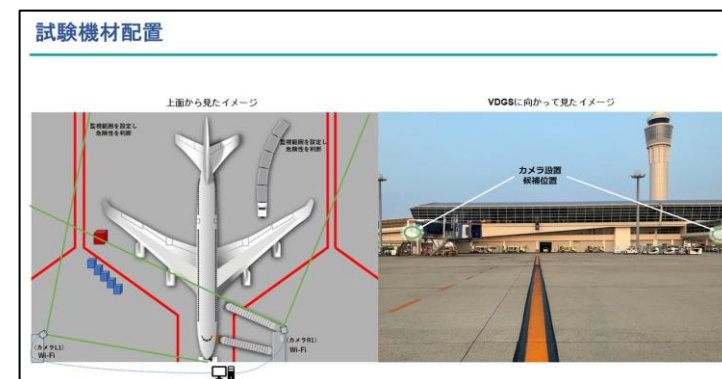
到着時運用における残課題として、夜間及び雨天時においても稼働率・検知精度を維持できるよう、必要な対策を検討・実施する（例：カメラ台数を3台に増設する）。

到着時におけるアラート発報の安定化を図った後は、出発時にも本システムを活用できるよう、機能拡張を進める。

実証結果

一部を除きKPIを達成することができ、概ね運用性の評価ができたが、夜間・悪天候時の運用信頼性については課題が残る結果となった。

図：カメラ設置場所（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

1. 新規枠

III. ANA中部空港株式会社 × 中部国際空港株式会社 × iPresence株式会社

“迷わせない” パーソナル空港案内の未来を先端技術で創る

ニーズ企業課題

現在、ANAではスタッフがひとりひとりのお客様に合わせて、搭乗までのご案内を行っている。今後見込まれる旅客増に対して、限られたスタッフでは十分なサポートが行き届かなくなってしまうことが想定される。

プロジェクト目的

先端技術によって『次世代パーソナル空港案内』と『省人化』に挑み、利用者がストレスなく空港を利用できるスムーズな体験を共に創出する。先端技術によるパーソナルなご案内（空港到着から搭乗までのご案内、リアルタイムの時間管理など）で顧客価値向上を目指す。

実証目的

空港ロビーに滞在する搭乗客が保安検査所を定刻通り、かつ余裕をもって通過することを目的として実施した。

実証内容

自律移動ロボットtemiがロビー内を常時巡回し、搭乗券QRコードのスキンを促すアナウンスを行う。搭乗客がQRコードをスキンのと、保安検査所通過締切時刻までの残り時間をカウントダウン表示する仕組みとした。これにより、搭乗客自身が時間的余裕の有無を直感的に把握でき、行動判断を促す設計としている。取得したスキンの情報は保安検査所通過データと照合可能とし、行動変容の有無を検証する。ノーショー防止策の具体化と、出発便情報とロボットの連携運用を実地で検証する。

今後の展望

本実証で構築した基盤をもとに、搭乗者一人ひとりに対する案内の精度と実用性をさらに高めていく。具体的には、出発便情報に加え、混雑状況や位置情報等を連携させることで、搭乗者ごとの状況に応じた、より適切な行動支援の実現を目指す。

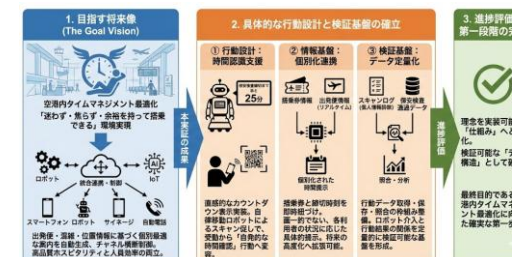
案内手段についても、ロボットに加えてスマートフォンやサイネージ等との連携を進め、複数チャネルを活用した一貫性のある情報提供体制の構築を図る。

将来的には、本取り組みを空港内全体の時間最適化を支えるサービスモデルへ発展させていく方針である。

実証結果

チケットスキャン利用者の多くが、出発締切に対して一定の余裕を持って保安検査場を通過していることが確認された。スキンの機能は搭乗客が残り時間を把握し、保安検査場へ向かうタイミングを判断する際の補助情報として利用されている可能性が示唆される。

図①：将来像に対する進捗：統合型スマートホスピタリティ空港モデルへの道のり



図②：実証の様子



3. プロジェクト概要

1. 新規枠

IV. 知多半島ケーブルネットワーク株式会社 × 株式会社Plaru

世代別・嗜好別観光体験の設計と発信支援

ニーズ企業課題

空港島や商業施設等で滞在を完結する常滑市の観光客が、余剰時間にできることがわからず、空港などで時間を持て余し、満足度が低い。

プロジェクト目的

常滑市の観光客に、デジタルマップ×ルート提案で訪問可能な旅行プランの作成及びスタンプラリーの実施により、常滑市内の周遊・消費を促すこと。

実証目的

- 目的①：常滑市の観光客の行動分析に必要な数値情報を収集すること。
当該数値情報（スタンプラリー参加者数、位置情報取得数、ルート保存数）をKPIとして設定し実証を行った。
- 目的②：常滑市内の観光情報を掲載するアプリ基盤を構築すること。

実証内容

スタンプラリーの地点に、その他常滑市の魅力スポットを追加した上で、デジタルマップを作成して、常滑市の観光客に利用を促した。
常滑市の観光客に利用を促す施策として、知多半島ケーブルネットワーク社が持つ地域ネットワークを活用し約30の企業（例：中部国際空港、イオンモール常滑など）と連携し広告活動を進めた（※実際の様子は図①を参照）。
広告施策だけでなく、プロジェクトメンバーによる観光客への直接の声掛けを通して、アプリの魅力の訴求及び利用方法のレクチャーを実施する等、利用促進に向けた取り組みを実施した（※実際の様子は図②を参照）。

今後の展望

2026年度は、本実証で取得したデータを分析し、常滑市の観光施策（例：旅行商品の造成・販売など）を発案・実行に移す。また、当該施策をアプリ上でも発信し、施策効果向上と効果計測を図る。
2027年度以降、知多半島ケーブルネットワーク社のテレビ媒体とPlaru社のアプリを連動したクロスメディア商品を開発すると共に、当該年度まで培ってきたPlaru社のデータ分析の手法で広告のROIを計測できるようにする。

実証結果

- 目的①：設定していたKPIを達成することができた。
- 目的②：知多半島ケーブルネットワーク社が保有する豊富な地域情報を活用したデジタルマップを作成することで、常滑市内の観光情報が掲載されたアプリ基盤を構築することができた。

図①：デジタルマップ利用促進の広告の様子（※実証報告書から抜粋）



図②：現地での利用促進活動の様子（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

1. 新規枠

V. 知多半島りんくう病院×株式会社ジョシュ



書類・データ整理をAIで仕組み化、ストレスフリーな医療サービス提供を実現

ニーズ企業課題

使用している帳票の確認内容が多岐にわたり、全体像を把握することが困難である。

看護師が紙で得た情報を各医療システムに手入力する作業負担が大きく、業務が逼迫している。

各診療科や使用設備ごとに患者データベースが分散しており、同一情報が複数システムに点在している。

プロジェクト目的

予測では高齢者増加が見込まれており医療需要が増える一方で、医療従事者数の減少が予測されている。これに医療の質を落とさず対応できる仕組み作りを目指す。

実証目的

紙帳票からの転記時間削減

複数回の同一項目入力時間削減

データ化による紙の削減

実証結果

β版での簡易的な使用感確認までを実施し、入院時のシチュエーションにおいて、紙帳票からの転記時間削減、複数回の同一項目入力時間削減及びデータ化による紙の削減の可能性を確認した。

実証内容

キックオフ、既存帳票の精査・分析、プロトタイプ作成及び利用・フィードバック・改善、β版の作成及び利用・フィードバック・改善を経て、検証結果を取りまとめた。

今後の展望

今回特定できた「救急での入院時のアセスメントシート作成・書類入力」に関して、実際の環境で効果を感じてもらえる事例を創出する。

フィードバックを反映した改良版をもとに導入のイメージをすり合わせ、先方の環境下で動くシステムの構築及び実環境下での効果測定を進める。

3. プロジェクト概要

1. 新規枠

VI. 中部国際空港株式会社 × イーマキーナ株式会社

バードストライクのさらなる抑制に向け、 ”人手に頼らずとも鳥を寄り付かせない滑走路”の実現

ニーズ企業課題

バードストライク防止のための、鳥の追払い及び飛来の防止には、空砲や煙火（音花火）、車両走行など、人による現地での対応が必要になる。一方で、3km以上に亘る滑走路一帯に対し、昼夜を問わず鳥がいらない状態を確保することは極めて困難である。さらなるバードストライクの低減に向けては、”人手に頼らずとも鳥を寄り付かせない”という新たなコンセプトでの持続可能なバードストライク対策が必要である。

プロジェクト目的

従来の方式の鳥対策ではなく、鳥に慣れさせず、人に頼らない新しい方法による、鳥を寄せ付けない滑走路の実現に向けて取り組む。

実証目的

超高音、超音波領域の音による鳥忌避効果の検証、光による鳥忌避効果の検証を行い、空港における鳥対策として有効な手段なのかどうかを検証した。並びに同機器を空港に設置するための諸条件の検証を行い、空港という特殊環境における設置条件を明確にし、実現可能性の検証を行った。

実証内容

空港島南側の一角に、超音波（Evasi AW）、高輝度LED（Evasi CRO）を設置し、鳥忌避効果を検証した。また、本実証における設置条件をCJIAC COCと協議の上、風速、潮、水等に配慮した設置条件の検討を行い設置条件を設定した。

今後の展望

今回設置した機器の効果について、季節ごとに変化する鳥の種類ごとに効果を検証するとともに、長期間効果を確認する。
上記内容を継続し、人に頼らない鳥の追い払いを実現したい。

実証結果

CJIAC COCと協議を繰り返し、風速に対応する設置条件を設定することができた。
機器の鳥忌避効果については、引き続き6月頃までを目処に検証を行う。

図：ソリューション案（※実証報告書から抜粋）



図：実証内容（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

1. 新規枠

VII. 中部国際空港株式会社 × 株式会社サイバーコア

免税店での顧客動向把握実証実験

ニーズ企業課題

顧客ニーズの把握が難しく、売場づくりが担当者の経験や勘に依存している。

限られた利用者（国際線利用者）の中で、最適な売場が実現できているか客観的に評価・検証する手段が不足している。

そのため、売上や顧客満足度の最大化につなげていない。

プロジェクト目的

免税店「CENTRAIR PLAZA」の顧客ニーズを把握し、売場や商品の最適化、売上・満足度の向上を目指す。

実証目的

免税店カメラ情報を基に、下記技術検証を行うこと。

精緻な人数カウント：複数カメラで同一人物が判定し重複カウントを削減

顧客行動分析：行動検知AIを利用し人の軌跡、手がどの棚に伸びたか分析

同一人物の動き、興味傾向を把握：複数カメラで同一人物を追跡、分析

実証結果

複数カメラによる同一人物判定（ReID）により、人数カウント精度は実運用上問題ない精度となった。

興味分析（棚への手伸ばし）については、カメラの画角により人及び手が隠れる等の検知漏れが生じており、精度向上に向けた課題が確認された。

実証内容

店舗設置の既存カメラのVMSとLAN接続し、4つのカメラの動画から行動及びReID解析を実施した。カメラ選定として、入店から店内回遊動線及び興味（手伸ばし）の把握が可能なものを4つ選定した。その上で、分析するエリアを設定し、エリアごとの分析を行った。

今後の展望

カメラ設置の最適化による改善：通路側へのカメラ設置による入店率の可視化や、画角の最適化による検知精度の向上を図る。

通信条件改善による処理速度の改善を図る。

AIでの解析データを更にLLMに入れることにより、日々の状態をレポート発信可能とし、アルバイト、新入社員等のノウハウが少ない人でも売場改善を可能にする。

3. プロジェクト概要

1. 新規枠

VIII. フォーポイントバイシェラトン名古屋 中部国際空港 × 株式会社JOYCLE

ホテルで出る廃棄物の新たな処理方法を検討し、処理コストの削減を実現

ニーズ企業課題

廃棄物処理費用の上昇
環境負荷の低減

プロジェクト目的

中長期で日本のマリオットグループ全体（国内約90ホテル）に展開し、廃棄物を現地で資源化することで、環境負荷とコストを同時に削減する

実証目的

JOYCLE BOXの処理能力の評価（ホテルの廃棄物を1日でどの程度処理ができるか）、経済合理性の分析、設置環境の課題の洗い出し、スタッフ実運用による評価を実施すること。

実証内容

愛知県国際展示場 多目的利用地Bにおいて、2026年2月24日から2月28日まで、熱分解装置「JOYCLE BOX」試作機（JB-02）を用いた実証を実施した。本実証では、JOYCLE BOXを同会場に設置・稼働させるとともに、ホテルで発生した生ごみをホテルから愛知県国際展示場へ輸送し、装置へ投入して処理を行った。処理対象は、生ごみおよびダンボールとした。あわせて、処理後に生じる残渣や各種処理データを確認・分析し、処理能力や電力消費量の測定を通じて、装置の経済性について評価を行った。

今後の展望

経済性の最適化に向けて、処理対象を生ごみ単体から「全体ごみ」へと拡大する。連続投入の実現性や、処理コストが発生している「混合ごみ」の助燃材としての活用可能性を検証し、実証された処理能力に見合った販売価格の最適化、および製造原価の低減方法を検討・推進する。

実証結果

「高含水生ごみ」を、過去の最大発生量を超えた条件下でも、24時間以内のバッチ処理で処理できることを実証した。

稼働中の臭気および騒音は、ホテルの運営に影響を及ぼさないレベルの静粛性および防臭状況であることが確認された。

助燃材としてのダンボール活用の有効性や、電源設備という具体的な導入要件が明確になった。

図：実証実験の様子（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

1. 新規枠

IX. 株式会社ブルーチップファーム × ナカチカ株式会社



インバウンド個人旅行者向け常滑周遊体験の創出

ニーズ企業課題

観光客流入の不足：中部国際空港からのアクセスに恵まれていながら、常滑市街がFITの旅程に組み込まれていない。

地域資源の未活用：焼き物文化や飲食施設など、地域独自の観光資源が十分に発信・活用されていない。

仕組の不足：FITの行動様式に即した「立ち寄り体験」「移動のしやすさ」「多言語情報発信」を統合した仕組みが存在しない。

プロジェクト目的

常滑市への魅力的な観光動線を設計すること

実証目的

台湾FIT旅行者の行動データ・嗜好データを取得すること

デジタルマップを通じて地域滞在時間と訪問数の増加を図ること

マップ利用を通じた訪問者の動向を把握すること

実証内容

デジタルマップ活用：スマートフォンからアクセスできるWEBイラストマップを用意し、GPS連動で訪問を記録し、指定スポットに到達することでスタンプを自動付与する。

スポット設定：観光施設、地元飲食店、商業エリアなど20か所程度を設定し、ブルーチップファームや地域の飲食店と連携して誘客効果を検証する。

達成条件：5か所訪問でスタンプラリー達成とし、達成者に特典（ノベルティやクーポン等）を提供する。

データ収集：各スポット訪問数、参加者数・達成率、回遊ルート分析、達成後アンケート（満足度、再訪意向）

実証結果

短期間で約1,900人のデジタルマップ利用があり、観光情報取得ツールとして一定の利用を確認した。

複数スポットへの訪問が確認され、市内回遊行動を可視化することができた。

英語・繁体字での閲覧が確認され、外国語環境での利用が一定数発生した。

今後の展望

来訪動向データを活用した広告施策の実施：ヒートマップ分析の結果、陶磁器会館周辺に来訪者が集中していることが確認されたことを踏まえ、当該エリアにおける広告掲出を検討している。

デジタルマップの継続活用によるデータ蓄積：デジタルマップは契約期間（1年間）を通じて継続運用し、来訪データの収集を継続する。

データを活用した観光施策の提案：収集・分析したデータを基に、デジタルマップの本格導入および継続活用について、観光協会への提案を行う予定。

3. プロジェクト概要

1. 新規枠

X. 名鉄ワールドトランスポート株式会社 × AltoAir株式会社

現場作業と顧客とのコミュニケーションを革新するDXツールの共創

ニーズ企業課題

荷物が「いつ・どの程度のサイズ／量」で倉庫に届くかについての情報が、事前に把握できないため、梱包・出庫作業プロセスに負荷が集中しやすい。
現行の運用では、荷物到着後に開封し、1個ずつ手に取り、荷主明細と突き合わせる必要があり、照合作業がボトルネックとなっている。
照合に関する判断根拠（画像・やり取り・指示）が紙・メール・口頭などに散在しており、説明責任や監査対応に手間と時間がかかる。
旅行者は、「店頭→ホテルで梱包→郵便局窓口→伝票記入」といった手続きの手間が大きく、サービス価値が低下する。

プロジェクト目的

生成AI技術を用いた荷主及び倉庫情報管理システムの導入により、倉庫内での取り違えゼロ化、倉庫入庫～出庫における荷物照合時間の短縮、サービス実施根拠となる画像・操作履歴を用いたエビデンス管理の高度化を実現すること。

実証目的

UI／フローの完結性（申込からステータス確認、受け取りまでの一連の手続きが、旅行者から見えて1つのアプリ／Web画面内で完結しているか）及びシステム導入後の倉庫側作業の時間をKPIとして設定及び確認しながら、実運用性を評価すること。

実証内容

現場での実証は2026年2月4日（水）に、名鉄ワールドトランスポート株式会社 中部空港オペレーションセンターにて実施した。対象業務は、荷主側における発送手配業務および、倉庫側における入庫作業であり、出庫作業については当日は実施していない。

今後の展望

実証の結果、実運用に移行するに当たり、荷主側における課題、倉庫での入庫・照合作業における課題、並びに倉庫保管に向けた加工・梱包・ユーザー通知における課題が明らかとなった。今後は、これらの課題に対する対応策を講じながら、実運用での利用開始に向けた取組を進める。

実証結果

倉庫アプリ（入庫）の対象作業は、事務作業（入庫予定票／入庫票作成）のデジタル化により、計測範囲で作業時間を約6割削減した。一方で、照合作業における処理待機や、荷主アプリでの撮影品質への依存など、実運用に向けた課題も明らかとなった。

図：実証実験の様子



3. プロジェクト概要

2. ライトハウス枠



1. 知多半島りんくう病院 × 株式会社Eyes, JAPAN

医師や看護師のカルテ等の記録作成作業や情報連携の効率化

ニーズ企業課題

記録業務の重い負担：30分の面談に対し平均50分以上の記録時間を要しており、時間外労働・職員疲弊の要因となっている。

情報漏れ・ミスリスク：複数職種の発言から重要な合意事項が記録から漏れ、継続ケアに支障が生じる。

職種間の情報共有不足：面談内容がカルテに十分反映されず、多職種間での情報共有が不完全である。

患者・家族の意向未反映：患者・家族の希望がケアプランに正確に反映されず、患者中心のケアの実現が困難である。

プロジェクト目的

地域包括ケアシステムにおける医療・介護連携の情報基盤を強化すること。

実証目的

昨年度PoC課題（UI複雑さ・取込み方法・専門用語認識・システム連携）を解決した上で、多職種面談（複数話者）へのAI記録適用可能性を実証すること。

音声認識精度、専門用語認識、話者識別精度、要約品質、業務効率化、操作性及び利用者評価の観点でKPIを設定した。

実証結果

概ねKPIを達成することができた。

実証内容

上記KPIに対し7項目の検証を毎月実施し、フィードバックを継続的に反映するアジャイル型で進めた。

音声処理はローカル処理方式を採用し、患者情報の院外送信ゼロを実現した。

患者・家族・ソーシャルワーカー・看護師等を対象に同意書を取得した上でデータを収集し、氏名等の個人情報自動マスキング処理（匿名化）を行ってから解析に使用した。

月1回の現場担当者ミーティングを通じ、継続的にフィードバックを収集した。

今後の展望

電子カルテAPIとのシームレスな自動連携（HL7/FHIR規格対応）、全職種への横断対応、音声品質が低い場合の認識精度向上、介護記録システムとの連携基盤構築等を、今後の課題として整理した。

本実証の成果を基に、りんくう病院全職種への展開を目指す。電子カルテベンダーとの連携協議を開始し、API連携仕様を策定する。

匿名化された面談データを活用した医療AI基盤（臨床決定支援・医療教育）への発展を検討する。

3. プロジェクト概要

2. ライトハウス枠

II. ANA中部空港株式会社 × AltoAir株式会社

航空機ハンドリング業務の省人化の実現

ニーズ企業課題

間違ったコンテナへの誤積みを即時検知し再投入を促すこと。

プロジェクト目的

ソーティングエリアで監視カメラと画像処理AIを用い、手荷物が誤ったコンテナに投入される瞬間をリアルタイムに検知する機能を、小規模構成で実証すること。

実証目的

間違ったコンテナへの誤積みを即時検知し再投入を促すこと。

実証内容

固定カメラでコンテナIDを読み取る：固定カメラを設置の上、画角内に入ってくるコンテナに対して、ID番号の読み取り精度を検証する。

AI動作解析で誤搭載シーンを判定：正常投入／誤投入をそれぞれ撮影してAIに学習させた上で、作業員に正常投入／誤投入を再現してもらい、学習したAIを用いてリアルタイムでアラートが鳴るか記録し精度評価する。

実証結果

一次試みでは、作業者ごとの動作の個人差や他作業者による遮蔽等により、誤搭載判定の成立に課題が確認された。

二次試みでは、カメラの設置場所・画角を見直すとともに、コンテナ入口（枠）をトリガーとした搭載判定ロジックに変更したことで、データ入力条件及びヘルメットIDの紐付け精度が改善した。

今後の展望

下記課題解決を進め、実運用への適用を進める。

ソーティングエリア全体をカバーできるように、複数のIPカメラおよびPCを設置すること。

カート・コンテナ・車両をすべて捕捉できること。

多様な手荷物形状に対応できるよう、データ収集と再学習を継続すること。

タグの撮像またはバーコード読み取りとサーバー照合による判定について、通信で発生する遅延が運用上の許容範囲内かを検証すること。

3. プロジェクト概要

2. ライトハウス枠

III. 株式会社矢場とん × 株式会社ファーストローンチ

「AIぶーちゃん」で「ここまで変わる」矢場とん

ニーズ企業課題

名古屋を代表するご当地グルメ矢場とんは土日は長い待ちの列ができる。長時間並ぶことは、集客力のある店舗であることを象徴するが、お客様に負担がかかっている。特に昨今の夏の猛暑日は命の危険ですらあることは非常に課題となっている。

行列の対応は、従業員の負担にもなっており、多忙な状況が続く中、接客サービスの質が落ちることがある。デジタル技術を活用し、入店管理業務の一部を、自動化・省人化したり、待ちが発生しても並ばなくてもいい仕組みが求められている。

プロジェクト目的

AIアバターの活用による、待機列の解消、テーブルのご案内を含めた入店管理の自動化による、フロアスタッフの削減、人件費の削減。

システムによる自動受付と呼び出し機能による、待機発生中でも並ばなくてもいい店舗オペレーションの実現。

実証目的

東芝テック製POSとの連動を含めた店舗運用システムを構築し、店舗スタッフと店舗運営オペレーションのシミュレーションを行い、実運用に耐えうるシステムであるかどうかを検証した。

実証内容

AIアバターを内蔵したキオスク端末から、入店番号を発券し、席案内、待機中であれば呼び出しを行い、店舗への入店オペレーションを確認し、実運用に足る機能があるか、確認を行い、足りない機能、不要な機能の検証を行った。

今後の展望

本実証における課題抽出結果に対し、システムで対応するか、人によるオペレーションで対応するかのディスカッションを行い、店舗での実証実験に向けたシステムの改修箇所の洗い出しを行なった後、システムの改修を行い、店舗実証を行う。店舗実証は2026年4月を予定しており、問題がなければそのまま実装していく。

実証結果

一部人が運用を行う場面があったが、概ねシステムとしては対応は可能なことが確認できた。

図：ロードマップ（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

3. 大規模枠

1. 株式会社ジェイアール東海高島屋 × マーベリックソリューション株式会社

日本最大級のバレンタイン催事「アムール・デュ・ショコラ」スマート運営の実現

ニーズ企業課題

大規模催事における会場混雑状況の把握方法が、アナログ的・属人的であり、従業員の業務負担が増大している。

プロジェクト目的

“「AIカメラ解析」による人流可視化”により、催事会場の滞留・移動状況をリアルタイムに把握し、スタッフのオペレーション効率の向上を果たす。

実証目的

複数のAIカメラ解析により、会場内の人流・滞留状況や瞬間人数をリアルタイムに可視化し、その有効性を検証する。運営スタッフが状況を直感的かつ迅速に把握できる基盤を整備し、将来的な混雑予測や在庫把握、AIアシスタント連携といった高度機能の実装に向けた基礎的知見を得ることを目的とする。

実証内容

対象：名古屋高島屋10階催事場『アムール・デュ・ショコラ（26年1～2月）』

方法：

会場内に複数カメラを設置し、AIによる匿名化解析を実施

カメラ映像から得られる人流データをリアルタイム集約

滞留エリア・流動経路をフロアマップ上に描画

瞬間的な来場人数を算出し、モニタ・ダッシュボードに反映

今後の展望

最後尾の見える化：現場スタッフのスマートフォンから、行列の最後尾がどのフロアのどの位置にあるかをリアルタイムで確認可能にする。

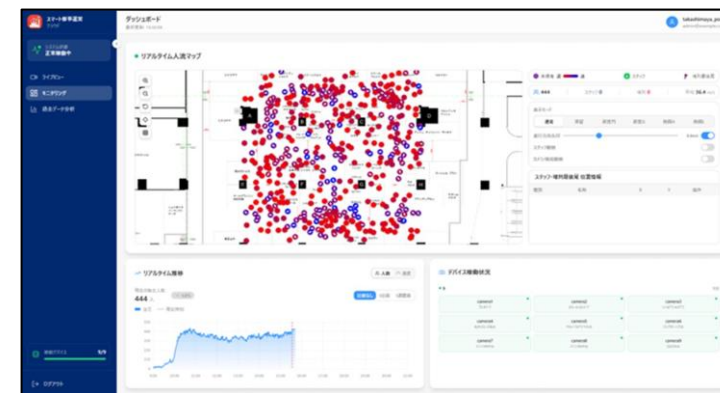
タイムリーな状況判断：最後尾状況を「見える化」することで、適切な人員配置や入場制限のタイミングを現場レベルで即座に判断可能にする。

実証結果

リアルタイムでの大局的な混雑状況把握により、オペレーション効率向上に寄与した。特に、時系列比較による「当日混雑度合の把握」が寄与した。

一方で、混雑時の人の重なりや店舗看板等の遮断物により、混雑時の滞留人数把握の精度に課題が残ったほか、「会場外の待機列対応」が新たな課題になった。

図：混雑状況把握ダッシュボード（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

3. 大規模枠



II. 株式会社中日新聞社 × 一般社団法人 One Smile Foundation

ユニークな観戦体験の創出によるスポーツ興行の裾野拡大

ニーズ企業課題

誰もがスポーツを楽しめる観戦体験が不足している。

ユニーク（テクノロジーの独自性）：スポーツ観戦は多様な選択肢があるが、どの会場でも同じような体験になりがちである。AIなどのテクノロジーを活用することで、従来にない付加価値を持つ観戦体験を提供することが必要となる。

観戦体験（差別化に富んだ、また楽しみたいくなる記憶）：従来の観戦は「応援する」「観る」とどまり、一方通行になりがちであった。その結果、強い印象や記憶に残らず、リピートに繋がらない状況がある。

裾野拡大（運動離れや無関心層にも響く）：スポーツへの関心は少子化や運動離れで縮小している。新しい観戦体験を開発することで、これまでスポーツに関心が薄かった層や、障がいなどの観戦に制限のあった方々も取り込み、将来的な収益基盤の拡大へ向ける必要がある。

プロジェクト目的

本実証では、会場外も巻き込んだインクルーシブな観戦体験モデルを確立するにあたり、会場「内」「外」からあふれ出す観戦者の「笑顔」をリアルタイムに計測・可視化することで、スポーツ興行の価値向上を目指すこと

実証目的

興行KPI（会場笑顔数、オンライン笑顔数）及び開発KPI（外部カメラ連携率、開場～終了までの連続稼働、アプリ基盤とのデータ連携）を検証指標として設定し、運用性および導入の効果を検証すること。

実証結果

それぞれのイベントで、概ねKPIを達成することができた。

名古屋フィギュアスケートフェスティバルでは、会場外参加の実現に関する目的を達成した。

エントリオ 豊田合成記念体育館では、開発KPIを概ね達成した。

実証内容

名古屋フィギュアスケートフェスティバル（1月4日）にて実証を実施した。本番では既存のスマホでの再撮影で実施し、リハーサルでは開発中のJetsonでテスト検証を実施し、動作の有効性を確認した。エントリオ 豊田合成記念体育館（2月23日）で行われたハンドボールの試合で実証を実施し、本番環境にてJetsonで運用した。

今後の展望

映像表示方式（p/i変換）への対応：会場ごとに異なる映像出力仕様に対応し、会場依存性を極力排除した「汎用導入パッケージ化」を目指す。

オンライン参加におけるUX設計：会場との遅延を前提に、即時フィードバック演出や積算型エンゲージメント設計、協賛広告との連動型報酬設計等を検討する。

協賛広告表示の最適化：会場内露出とオンライン露出の統合KPI設計や業種別スポンサー演出パターンの開発を進め、協賛メニューの高度化を図る。

3. プロジェクト概要

3. 大規模枠

III. 株式会社名古屋グランパスエイト × VRTalk株式会社

大規模スポーツ興行における来場者に“迷わせない”観戦体験の設計

ニーズ企業課題

来場者（豊田スタジアム入場可能数：42,753人）に対して、配置できるスタッフ数での対応の限界
アルバイトスタッフ、ボランティアスタッフ中心の対応による品質のバラつき（スタッフ教育の限界）
スタッフでフォローしきれない来場者のアクシデント（座席、動線間違い等）による観戦体験価値の低下

プロジェクト目的

従来割いてきた来場者対応のリソースをデジタル技術を用いて効率化した分、新たな観戦体験やサービスの提供に費やすことに還元することを目指す

実証目的

大規模スポーツイベントの現場にて、ヒトによる案内に代わる手段として有効かどうか確認する
サービスの継続的な導入によって、将来的にヒト中心の現場対応からの脱却に寄与できるか確認する

実証内容

実際のスタジアム運営に準じた3Dナビゲーション案内の精度（席種に応じた適正ルートへの対応）
大規模スポーツイベント環境下でのサービス利用における不具合の有無（30,000人以上の来場下での通信環境、天候・日照等のアプリ使用環境が与える影響）
生成AI連携の回答精度
AR広告の有用性
導入面（工数、関係各所との調整、施設への影響）
運用面（各試合に向けた編集、管理画面の使用感）

今後の展望

本実証は「基礎検証フェーズ完了」と位置付け、次段階は「実運用最適化フェーズ」へ移行する段階と整理した。

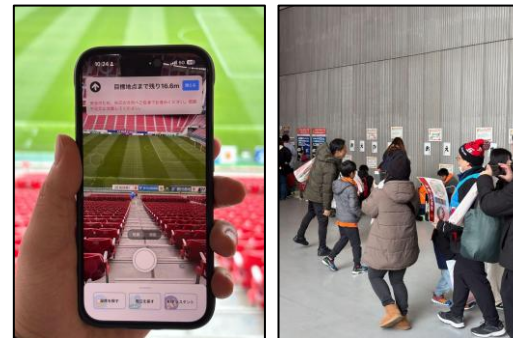
実証結果

大規模スポーツイベント環境下（約30,000人規模）において、3Dナビゲーション機能は概ね実用水準で動作することを確認した。
座席までの案内手段として「分かりやすい」との評価を獲得した。
大規模利用環境下でもサービス継続性を維持し、基礎機能の成立性を確認した。

図：今後の展望、マイルストーン（※実証報告書から抜粋）



図：実証の様子



3. プロジェクト概要

3. 大規模枠

IV. 株式会社道の駅とよはし×株式会社はこぶん

愛知県No.1 道の駅における来訪者データを活用した顧客満足度の向上

ニーズ企業課題

「感覚」と「実態」の答え合わせによる施策と意思決定精度の向上

「感覚・経験則」頼りからの脱却：マーケティングデータが不足し「誰が・なぜ買ったか」が不明瞭である。

サイレントカスタマーの隠れニーズ発掘：従来アンケートでは潜在ニーズや「離脱理由」まで拾いきれない。

プロジェクト目的

データに基づく売上拡大モデルの確立

実証目的

顧客実態の「正確な把握」：経営・現場の仮説と顧客体験のズレを解消し、誰が・なぜ買っているのかをデータで可視化する。

施策への反映と「売上促進」：得られた声を商品開発・販促へ取り込み、売上アップ・満足度向上へ繋げる。

量（回答数）、質（施策立案数）及び運用（現場フィードバック）の観点から評価する。

実証内容

タッチポイント（コンセプトショップ「temiyo」、インフォメーション「とよはしSTORE」、ポップコーン専門店「MePOPCORN」）ごとにオリジナルデザインで顧客に案内・声の収集/分析を実施した（※デザインは右図を参照）。

今後の展望

SNS/店頭POP掲示などのマーケティング施策を3月以降に本格展開
4月以降の継続導入に向けた座組みを提案

実証結果

概ねKPIを達成することができた。

インサイト分析に十分なデータ量を確保し、限定感を演出したセット商品の企画・販売につなげることができた。

オペレーション上のトラブル無くスムーズに導入でき、売り場を動かすための根拠が明確になった。

図：アンケートデザイン（※実証報告書から抜粋）



3. プロジェクト概要

3. 大規模枠

V. 株式会社矢場とん × マーベリックソリューション株式会社

最速みそかつナビ！最短で入れる店舗を現在地からご案内

ニーズ企業課題

現在、矢場とんでは長時間の行列が常態化し、正確な待ち時間が分からないことで、観光客の不安や来店回避、他店への流出といった機会損失が発生している。待ち時間の算出はスタッフの経験に頼っており、手動入力による情報のばらつきや更新漏れも課題となっている。これにより、現場の業務負荷が増し、接客やオペレーションにも支障をきたしているため、従業員に負荷をかけない混雑状況の可視化ツールと、お客様をお待たせしない店舗のご案内などが求められている。

プロジェクト目的

待ち時間の可視化と最適化により、観光客を含む全来店者が安心して最短で「みそかつ」を楽しめる体験を実現し、現場の運用負荷を軽減する。

実証目的

最速みそかつナビの実現に向けて、AIカメラを用い待機列を撮影し、待機時間を計測し、正確な待機時間の予測、計測を行う。

実証内容

矢場とん本店、ラシック店の2店舗において、待機列をAIカメラで撮影を行い、待機時間の実測とAIによる予測を行った。

今後の展望

店舗オペレーションの最適化や回転率の把握といった活用の仕方も含めて、経営に対するインパクトの大きなプロジェクト組成に向けて、シーズ企業から再度提案を行っていく予定である。

実証結果

店外に設置したAIカメラから待機列の消化時間を計測し、予測AIモデルを構築した。KPIである実測に対し±5分の精度は概ね達成している状況である。

副次的な効果として、単位時間あたりの入店人数の計測ができることから、店舗の回転率まで算出することが可能となり、店舗のオペレーション改善にも活用ができることが示唆されている。

図：栄ラシック店設置場所（※実証報告書から抜粋）

